

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193200094		
法人名	医療法人社団 三愛会		
事業所名	グループホーム「里の家」2号館 いぶきユニット		
所在地	名寄市大通北5丁目4番地		
自己評価作成日	平成27年7月28日	評価結果市町村受理日	平成27年10月30日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=0193200094-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会
所在地	〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目1番地
訪問調査日	平成27年9月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体法人の病院が近くにあり、連携を図りながら利用者の心身の安定に努めている。また、コンビニや公園も近くにあり職員と買い物や散歩など日常的に出かけ地域資源を活用させてもらっている。開設から4年目を迎え、地域に根差すことを目標に町内会とのかかわりを大切にしてきました。運営推進会議を通しグループホームへの理解が深まりつつあると実感していますが、町内会にとどまらない地域の方々に根付ける事業所を目指していきたいと思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、病院や介護施設を運営する法人の2番目のグループホームとして開設し、調査時で5年目を迎えている。地域に根差した事業所を目標に、グループホームの機能や役割、特徴を踏まえたサービスの提供に取り組んでいる。隣接の系列病院との医療連携により健康面で安心できるように支援している。地域とは日常的に交流し、祭りや焼肉会でふれ合い、運営推進会議や防災訓練にも積極的な参加協力を得ている。平屋作りの建物内は開放的で明るく、利用者が安心して生活できる環境であり、家族や地域住民が訪問しやすい雰囲気である。ケア面では、3ヶ月毎のアセスメントやモニタリングを通して現状を把握し、必要とする支援を丁寧に行うとともに、献立の工夫など食を通じた取り組み、日課の散歩を始めとする戸外活動にも力を入れており、法人としても利用者の楽しめる場面作りを積極的に支援している。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に実践につなげることは難しいが、日々積み重ねてく中で「私の家」と言って下さる入居者もいて、普段の係りやケアプランとのつながりが理念に近いものになってきているのではないかなと思う。	年に1度理念を振り返り、利用者の「安心」に焦点を当て、職員の「気づける目」を目標に掲げながら日々の実践に取り組んでいる。ケアに迷った場合は理念に立ち返ることを促し、介護計画に繋げるようにしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会や当事業所の行事を通し交流の機会が徐々に増えていて、そのためか顔なじみの方が増えていて散歩など外で会うと気軽に挨拶したり、近所の方は自家製の野菜をおすそ分けして下さったり交流は深まってきていると思う。	町内会の夏祭りや忘年会に利用者と共に参加し、事業所の焼肉会には日頃の感謝を表して地域住民を招いて交流している。近隣の方から野菜の差し入れがあり、買い物や散歩時のふれ合いなども増えてきている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の場では意見や質問を通し、事業所の支援や考え方など伝えることができていますが、地域全体としては発信する場はなかなか持っていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	話し合った内容は記録に残し、いつでも閲覧できるようにして意見等についても参考にさせていただいている。	利用者や家族、町内会、行政担当者の参加で2ヶ月毎に開催している。事業所の現状を報告し意見交換を深めている。メンバーの助言により、事業所の敬老会に地域から詩吟やハーモニカ奏者の来訪があるなど、協力を得ている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当職員とは相談しやすい雰囲気と環境があり、直接出向き手続きや相談を行っている。また、事業運営やサービスに係る疑問などもすぐに対応と回答をいただいている。	行政担当者とは良好な協働関係にあり、運営推進会議や各種情報の交換、電話や直接出向いて問題解決に向けて取り組んでいる。年数回行われる市主催の研修会や事例検討会に、積極的に参加している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年一回のペースで内部研修を行い、理解を深めるよう努めている。拘束につながらないようなケアの方法や係りの実践に心がけている。	事例による研修を行い、ケースを考える中で日常ケアと照らし合わせ理解を深めるようにしている。法人内研修や市の虐待防止研修会に参加し、職員間で資料を共有して身体拘束についても学んでいる。玄関は夜間のみ施錠し、外出傾向にある利用者には職員が寄り添い、行動を制限しないようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止と合わせて内部研修の機会を持ち、常に虐待防止の徹底に注意を払っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修の講義で学ぶ機会が持てた職員はいるが、全職員が改めて学ぶという機会を持っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に十分な説明をし同意をいただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	3か月に一度はケアプランを通し家族、本人の意向を汲み取るようになってきた。また、面会時には家族とのコミュニケーションを図り、話しやすい雰囲気作りにも努めてきた。意見や要望は申し送りや連絡ノートを活用している。	来訪時には対話を心掛け、ユニット毎の便りで暮らしの様子や個別状況を伝え、遠方の家族に定期的に電話するなど接点を多く持ち関係作りに努めている。家族の意向は職員間で共有して、アンケートの結果もサービスに活かしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は全体、ユニット、個別単位で状況に応じ意見交換や話し合いの場を持つように努めてきた。提案なども、出来る限り尊重しながら反映できるよう努めてきた。	管理者は、職員との意思疎通を大切にして、会議や日常業務、人事考課の面談等でも話し合う機会を設けている。法人本部のバックアップもあり、管理者を通して職員の行事企画案を提出し、利用者の楽しみに反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は年に一度、人事考課により個々の勤務状況や実績を把握して、個人目標を基に面接をし向上していくよう努めてきた。法人としても資格取得に向けた環境や条件等も整えたバックアップがある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部では定期的に研修を行っていて、外部研修も内容と経験年数を照らし合わせて機会を持っている所。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	市単位の研修などでは年に数回だが、同業者と交流や情報交換できる機会がある。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の情報は共有できる機会を持つようにしている。本人、家族の希望に添えるよう信頼関係づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込みの段階で、ある程度の情報をお願い待機中も定期的に状況確認した中で、入居時や入居後も不安を少しでも解消できるよう、時には家族に協力をいただき関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前では、担当のケアマネージャーとの連携に心がけている。状況によっては入居前にショートステイやデイサービスの回数を増やすことを勧めたり、家族の不安が少しでも軽減できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	同じ目線に立ち「一緒に」家事を行える場面づくりをしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が来訪されたら気兼ねなく過ごして頂ける雰囲気作りをし、家族からも職員に気軽に話しかけて下さっていると思う。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人、友人が自由に面会できるまた、家族と外出、外泊がいつでもできる環境。	利用者の友人達が気軽に訪問しており、居心地良く過ごせるように対応している。職員と家族が協力し、墓参や近隣の美容室の利用、自宅や畑に出掛けるなど、今までの生活習慣や馴染みの関係を継続できるようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人で過ごすことを好む方もいるが、入居者同士の関係を理解しまた、耳が遠く会話が成立しない方でも職員が間に入り、孤立しないような支援をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても必要に応じ支援できるよう努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人・家族からの情報を職員間で共有しアセスメントにつなげている。	日常の会話で思いを受け止め、意思表示が困難な方も表情から読み取って理解するように努めている。気づくことを主眼に、日々の記録には利用者のありのままの言葉を記載して、本人の全体像の把握に役立てている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式のシートを活用し把握に努めているが、情報が少ない入居者もいて詳細に把握できていない部分もある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体調の変化の訴えが少ない方もいるので、日々の過ごし方に注意申し送り等で現状の把握につとめている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個々には3か月に一度見直しをしている。生活の様子、健康状態、職員の気づき、本人・家族の意向を反映できるよう介護計画を作成しているが、さらに現状に則した介護計画を作りたい。	一部センター方式を活用してアセスメントを行い、モニタリング、カンファレンスを通して現状の見極めに取り組んでいる。3ヶ月毎の介護計画の見直し時に本人や家族に原案を提示して話し合い、意向を反映した計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録はケアの実施状況の記入漏れもすることもあるため、プランの評価が正確ではないこともあると思いますが、記録によってプランの見直しにつなげることができている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々のニーズに応じ受診やリハビリ通院の支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市のイベントや町内会の催しに参加したり近くの公園への散歩や道の駅へ出かけたり季節ごとの行事に参加するなど楽しめて入りと思う。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が希望する医療機関、医師に受診できるように支援に努めている。	利用者それぞれのかかりつけ医や希望の医療機関の受診を支援している。受診時には普段の様子や変化を伝えて主治医と関係作りをしている。系列の医療機関との連携体制により、看護師が健康管理を行っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携の中で週に一回、看護師訪問があり一週間ごとに体調の変化や受診結果等、用紙に記録と報告をし看護師からも意見やアドバイスをもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的な受診の中で状態変化時には相談できるような関係づくりに努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	重度化・終末期の対応は予測できた段階で方向性を家族・職員間で話し合いを重ねている。医療が長期化されることが予測されるまで、ベストなケアに努める。	重度化や終末期の対応については、入居時や状態変化の各段階で事業所の対応の在り方を説明し、今後の方向性を話し合っている。事業所として終末期ケアは実施しておらず、特養入所なども含めて利用者や家族が希望する支援に努めている。	利用契約時に事業所の方針を口頭でも説明しているが、契約書等の記載に分かりづらい面があるので、より分かり易い文言での提示を期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な救命講習受講を検討する。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	開設時より、年2回の避難訓練には町内会の協力が得られている。災害時のために簡易暖房器具と非常食と水を備蓄している。	毎年2回の避難訓練を実施し、今年度は6月に消防署の立会いで通報、消火、避難訓練を行っている。地域から参加があり、緊急時連絡網にも町内会長の協力を得ている。災害時に必要な備蓄品等を準備している。	災害緊急時の避難場所を確認し家族等に周知すると共に、非常持ち出しの検討やその準備の取り組みを期待する。また、全職員対象として救急救命講習の開催を検討しており、その実施も期待したい。

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーにかかわる内容については声の大きさに気を付け、周囲に聞こえないようになり、また、馴れ合いな言葉使いにならないよう配慮しているが不十分なこともあると思う。	職員は毎年接遇を学び、利用者との関わりの中で言葉遣いも馴れ合いにならぬよう注意している。入浴や排泄介助は利用者の尊厳やプライバシーの配慮に努めている。個人情報は事務室の所定の場所で管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	～しませんか？など選べる言葉かけに心がけている。また、家事なども自由に参加できる環境づくりにも心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	家事作業や園芸など自由に参加できる環境づくりに心がけているが、場合によっては職員の都合を優先してしまっていることがある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装については重ね着してしまう方や気温に見合う選択ができない方など必要に応じた支援で配慮していると思う。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	疾患により食事に制限がある方も献立を一品は好みの物に替えたり、全体的に嗜好や季節感を取り入れるようにして楽しみながら食していただけるよう心がけている。下ごしらえや準備も一緒に行い「食事」に対して関わる機会を持てるようにしている。	誕生会にケーキを手作りしたり、出前を取ったりし、差し入れを活用して旬の物を提供するなど、食事が楽しみとなるように工夫している。食の関わりを大切にしており、日常の何気ない会話を発展させ、利用者の手打ちうどん作りなども支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食が細い方や水分を摂りたがらない方などは内容や好みの物の工夫をしたり、時間をすらしたり一日を通して摂れるよう工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人に任せている方もいる。就寝前は出来る限り口腔ケアを行うようにしているが、全体的には十分ではない。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	自らの訴えが無い方は時間をみながら誘導を行っていて、トイレでの排泄が増えるよう支援している。	独自の排泄チェック表を基に個別のパターンや排泄状況を確認し、トイレでの排泄を支援している。衛生用品は個別の状態を使い分け、できるだけ失敗が少なくなるよう誘導間隔に注意している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	身体を動かす機会を持つようにしているが、便秘をしてしまった時は下剤を処方してもらっている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	入浴の準備は毎日行っていて、希望や間隔をみて週に2回は入浴できるように支援している。	週2回以上の入浴で、自立入浴の方以外は全身の状態や同性介助の希望に配慮しながら入浴を支援している。また拒否のある場合は抵抗感が少なくなるように、人や時間を変えて清潔保持に柔軟に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりのペースで入床していただいている。朝も本人のペースで起床していただいている。日中の昼寝も必要に応じ臥床していただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全入居者の処方薬を表にして職員が確認できるようにしているが、すべての処方薬や副作用などを理解するまでに至っていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩を日課にしたり台所の作業を楽しみにされている方もいる。その他の家事や余暇で折り紙をしたり、ここの好きなことができる環境にあると思う。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	全ての希望には副えないが外出・外食の機会を持つようにし家族から外泊・外出の希望があればいつでも出かけられるよう支援している。	朝の散歩が日課になっており、中庭に出たり、買い物や家族と一緒に外出したり、気分転換に出掛けられるように支援している。年間で外出行事を計画し、道の駅での外食やドライブ、季節毎の花々を觀賞するなど、楽しみが持てる活動に積極的に取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段、お金は本人に持ってもらっていないので、希望がかなうまでには至っていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人自ら電話をかけるという方はいないが、遠方の家族に電話で話せるような支援をしたり、ごく一部の入居者では数人と文通を楽しまれている方もいる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	音(テレビ、掃除機、職員の声のトーンなど)や湿度(換気、クーラーなど)には気を付け、それにより落ち着かなくなることがないように心がけている。	ユニット間の行き来も容易な平屋作りで、職員間の連携が取りやすい構造である。天窓から自然光が差し込む開放的な共用空間は、居間と食堂を仕切り、落ち着ける居場所を工夫している。中庭でミニ菜園が楽しめ、観葉植物、日めくりや折り紙の作品が飾られ、生活感がある環境になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者同士の関係をスタッフが理解し、自然に過ごしやすい場所が出来ているように思える。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物を持ち込んでいただけるよう話をしている。	室内には、使い慣れた家具や家電製品、趣味の小物や写真、鉢物など希望の物を持ち込み、個性的な居室になっている。ベッドや布団使用と、それぞれの生活習慣を維持し安心して過ごせるように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	迷うことがある時もあるがリビングでは食卓やソファなどがあり、職員が付き添うことで大きな混乱はみられていないと思う。		